

下部消化管内視鏡検査（大腸カメラ）に関する説明書

自衛隊那覇病院

I D. 氏名

【検査前日および当日の注意事項】

□ **検査前日** 月 日 の食事は夜9時までに済ませてください。

この時間以降は検査が終わるまで、何も食べないでください。

下部消化管内視鏡検査を実施するにあたり、以下の項目をお読みになった後、説明にご納得いただけましたら、同意書にご署名をお願いします。

1 下記に該当される方は、必ず担当医または看護師にお申し出ください。

- (1) 心臓・血管の病気や脳梗塞などで抗凝固剤や抗血小板薬を服用している方
- (2) 緑内障（眼圧が高い）・前立腺肥大症・糖尿病等の方
- (3) 薬（局所麻酔薬のキシロカインおよびその他の薬）・卵・大豆アレルギーがある方
- (4) 妊娠およびその可能性がある方

※ 内服薬がある場合は、すべてご提示ください。

2 下部消化管内視鏡検査の目的・方法について

- (1) カメラを肛門から挿入して肛門から盲腸まで、約1メートルの長さにより大腸を観察します。検査時間は15～30分程度です。
- (2) 検査を確実にを行うために、下剤を内服し大腸を洗浄します。
- (3) 大腸の動きを抑えるため、検査前に注射します。副作用として、お腹が張る、ガスが出にくい、尿が出づらい、動悸、散瞳（光が眩しい）など起こることがあります。
- (4) 検査中に腸の粘膜を採取し、顕微鏡の検査（生検）を行うことがあります。
- (5) 医師の判断で検査中にご本人と相談の上、静脈注射による麻酔（鎮静剤）を使用する場合があります。鎮静剤の使用には以下の危険と制限があります。鎮静剤を希望されない方はお申し出ください。

- 薬の作用により眠気・ふらつき・物忘れ・呼吸抑制（息がしづらい）・血圧低下などが現れることがあります。
- 鎮静剤使用中に緊急の処置が必要になった場合は、適切に検査・処置を実施します。
- 検査終了後、鎮静から醒めるまでの間はベッド上で安静（約2時間）が必要です。

3 下部消化管内視鏡検査の偶発症について

偶発性の中で重要なものは(1)出血 (2)穿孔(大腸に穴があく) (3)ショックです。当院では適切に対処できるよう万全な事態を整えています。

※ 当日は下剤内服時に500ml程度のペットボトル、コップ等の容器を使用しますので、ご持参ください。お忘れになった場合は、病院1F自動販売機で販売しておりますのでご購入をお願いします。

※ 念のため、タオルを1枚ご持参ください。

R4.6.10 作成